

○平成 24 年 10 月 1 日 こども家庭局

## 1. 子育て日本一のまちについて

(北山議員)

私は常日頃から子育て日本一のまち神戸をつくれとやかましく言ってきた。宮崎市長も笹山市長も矢田市長も一生懸命やりますと言ってきた。しかし本当は何も出来ていない。

私が保育所だけ充実してくださいと言っていると思っているように感じるが、保育所だけを充実させるのではなく、トータルで子育てしやすい国、まちにしないといけない。そのためには住宅の問題、教育の問題、医療、交通の問題もある。交通局は子ども 2 人までは乗車料金を無料にするというエコファミリー制度をやっている。素晴らしい制度である。あれをみなさんも応援するという姿勢でないといけない。2 人子育てするより、3 人、4 人のほうがもっとしんどい。それをいっしょになって応援しようという気持ちになるべきだと思う。こども家庭局ほどの意味でこの分野は日本一だと言えるものがあるなら教えていただきたい。次世代のこどもを育む市民会議の報告書は、当局が提出した報告書の中で一番よくできたものだと高く評価している。本当に素晴らしいことが書いてある。あのおりにみなさんが取り組んでいただいたら、神戸は間違いなく子育て日本一のまちになると思う。今なぜ、こんなに出生率が低いのか。昭和20年代の日本は270万人台の子どもが生まれていた。今は100万人台である。フランスの出生率が急上昇したのは、子育て支援のために小さい施策をたくさんつくった。その上、宗教が影響している。できた子どもは神様の授かり物である。子どもをいらないというのは絶対にいけないということを宗教が言っている。日本の宗教もこれと言ってほしい。子どもは神様、ご先祖からの授かり物として子育てに一生懸命に取り組むべきだと私は考えている。今、公式に発表されている中絶件数は年間35万件である。この約5倍が無届で処分されているという話はお聞きになったことがあると思う。子育て日本一のまちを作るための覚悟を聞きたい。

(長田こども家庭局長)

人口減少問題、ひいては少子化対策については、日本全体における喫緊の課題であり、神戸市においても最重要課題の一つと受けとめ、取り組んでいるところである。

私どもこども家庭局としても、子どもに関する施策を一元的に担当する局として、各施策を新たな視点で見つめ直し、さらなる子ども・子育て支援の充実に取り組んでいきたいと考えている。

委員より、交通局のエコファミリー制度や住宅施策のお話があった。それぞれ非常にきめ細かく、いろいろな観点から子育て支援に取り組んでいる。

神戸で日本一と言えるものはないのかということについて、飛びぬけて一番というものはないのが事実である。私どもは今までもこれだけ飛びぬけてということではなく、バランスよくトータルとして子育て支援策の充実をさせていく必要があるという姿勢で取り組んできた。

例えば、児童館は他都市に先駆けて中学校区に1か所を目標に整備を進め、政令市の中でトップク

ラスの数である。また、市民一人当たりの都市公園面積が政令市で最大となっている。公園緑地は児童の健全育成や地域住民にとって重要なオープンスペースであり、子育てしやすい環境のひとつとして誇れるものではないかと考えている。

さらに、神戸っ子応援団事業に取り組んでいる。これは、家庭・地域・学校・行政が一体となって、地域ぐるみで子どもたちを育てるという取り組みである。もともと教育委員会の時代からこの事業は始まったものであるが、今年、教育委員会からこども家庭局に移管した。こういった取り組みを子どもを担当する部局で実施するのは全国的にも珍しい。

昨年度までは「学校支援」を中心とした活動内容であったが、今年度からは、学校行事に地域住民が支援・協力すると同時に、生徒も地域活動に参画するなど、「学校への一方向の支援」から「学校と地域が双方向で支援しあうこと」へ活動の幅を広げようとしているところである。神戸市独自の取り組みであり、地域の活性化にもつながるものだと考えている。

いずれにしても、安心して子どもを産み育てることができるまちを実現するためには、一つの分野に特化するのではなく、トータルとして子育て支援策の充実を図っていくことが大変重要だと考えており、それを念頭に置きながら、今後いろいろな意味で施策の見つめ直しなども行い、効果的・一体的な展開に努めてまいりたい。

#### (北山議員)

こども家庭局ができたいきさつを考えると、みなさんがやらなければならない仕事がたくさんある。教育の問題や医療の問題がある。医療は中学校3年生まで無料にすると言いながら、ただし入院に限るという制限をつけている。「ただし」などいらない。入院も通院も無料にする、そうならなかったら辞表を出すくらいの気持ちで取り組んでいただきたい。

他局に対しても意見をしてほしい。交通局はよくやってくれている。輪をかけるべきである。住宅局に対しても、まちに活力を取り戻すためには、若い人に安い住宅を用意し、住めるほうにすべきである。そういうことも考えてほしい。

フランスの出生率が上がった理由は、キリスト教のえらい人が子どもをおろしてはいけないと言ったことで、出生率のカーブが上がったそうである。

あなた方の決意を聞きたい。

#### (長田こども家庭局長)

さきほどの答弁で決意は申し上げたつもりである。子どもの処分の件については、国の法律の観点もある。少しでも出生率が上向きように、子ども子育て支援策に全勢力をあげて臨んでいきたいと思っている。ご理解をお願いしたい。